

クラブテーマ 「一人ひとりが輝こう」  
出会いと絆を大切に

会長：北 健司 例会日：金曜日 12:30～13:30  
副会長：加藤久仁明 例会場：ホテルプラザ勝川  
副会長：伊藤 一裕 事務局：春日井市鳥居松町 5-45  
幹事：青山 博徳 TEL:(0568)81-8498 FAX:(0568)82-0265  
会報委員長：枋本 正樹 E-mail : ksgj-rc@gaea.ocn.ne.jp



<ダイアナ・プリンセス・オブ・ウェールズ>

2019年11月15日(金)2425回(11月第2例会)

**先週の記録**

**会長挨拶**

会長 北 健司君

「祝・即位の礼」

皆様こんにちは。今日も例会への出席、ありがとうございます。徳仁（なるひと）天皇陛下、雅子（まさこ）皇后陛下におかれましては10月22日の即位の礼を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。

私は公益財団法人日本ばら会の皇室委員として平成11年から平成30年までの20年間、毎年、夏（9月）と冬（2月）、バラの剪定に皇居と赤坂御所（旧東宮御所）へ訪問いたしました。現在の上皇様、上皇后様との多くのエピソードは感慨深い思い出でもあります。皇居でのバラの剪定後、皇居応接室で美智子上皇后さまと親しくバラ談義をさせていただくこともしばしばで、上皇后さまはバラへのご造詣も大変深く、いろいろなご質問もいただき貴重で有意義な時間を過ごさせていただいたことは大変光栄なことと感謝しています。

徳仁、雅子両陛下が現在お住いの赤坂御所（旧東宮御所）には美智子上皇后さまが皇太子妃時代に愛培されていたバラ園があります。美智子上皇后さまから受け継がれたバラを雅子皇后さまが今もとても大切にされておられ、大変うれしく思います。雅子皇后さまからは、赤坂御所でのバラの剪定後には、体調が思わしくなく公務も果たせなかった中でも、いつも女官長を通じ、労いと感謝のお言葉を賜りましたことは大変光栄なことであったと今も深く心に刻んでいます。

バラの栽培とは別に、私は65歳まで山岳写真を撮っていました。日本山岳写真協会の正会員として東京上野の都立美術館（旧国立美術館）で毎年開催される協会展には幾度となく出品を許されましたが、この写真展には皇太子時代の徳仁陛下御自身がお撮りになられた山岳写真の特別出展を賜りました。陛下より御下賜いただいたお写真は、いつも雄大で、自然への造詣も大変深く感じられ

**本日のプログラム**

	司会	会場委員会
・点鐘	会長 北 健司君	
・ROTARY SONG	「奉仕の理想」	
・今月の歌	「どこまでも行こう」	
・ビジター紹介	会長 北 健司君	
	株式会社テラ・ラボ 松浦 孝英様	
・食事・歓談		
・委員会報告		
・幹事報告	幹事 青山 博徳君	
・祝福		
・卓話	株式会社テラ・ラボ 松浦 孝英様	
・点鐘	会長 北 健司君	

**今月の歌**

「どこまでも行こう」  
どこまでも 行こう  
道はきびしくとも  
口笛を吹きながら  
走ってゆこう

**今月の祝福**

**会員誕生日**

15日 三上 努君  
25日 内藤 修久君  
30日 速水 敬志君

**結婚記念日**

4日 三上 努君  
11日 近藤 太門君  
11日 小柳出和文君

**夫人誕生日**

3日 速水 敬志君・文子さん  
8日 伊藤 正之君・君子さん  
12日 名畑 豊君・ゆかりさん  
26日 社本 太郎君・富志さん  
27日 西村 輝幸君・淳子さん

**アテンダンス表彰**

6ヶ年 速水 敬志君

**ロータリー財団月間**

例会予定	11月27日(水)	12月6日(金)	12月13日(金)	12月20日(金)
	小牧RC 合同例会 12:30～ 名鉄小牧ホテル	第6回理事会 11:15～ 年次総会	祝福 卓話 小川 長君 大原泰昭君・岡本 博貴君	クリスマス家族会 18:00～ ホテルプラザ勝川
	※11月29日(金) 例会変更			



中学入学時に終戦となりました。中学、高校は大町中学に通いました。サッカー部で六年間走り回りました、冬はラグビーでした。

家から穂高駅七時十三分の電車に乗るのですが、半分小走りで一里の道を約二十五分で通いやがて高校を卒業して大学生活になるのですが、一年は三島の教養部で学び、二年からは東京でした。西荻窪には東京女子大があり駅へ向かっていくと東女の女子学生がぞろぞろ来るのと行き違いになりいささか恥ずかしい思いをして、下を向きながら駅へ向かっておりました。大学の工学部はお茶の水駅からすぐのところでありまして、そばにニコライ堂があります、あのドームの姿を、懐かしく思い先日寄ってみたのですが、廻りに高い建物が出来ていて、かつての周りの景観は昔と大分変わってしまっていました。私は四年間で取得する単位を三年ですべて完了しており、四年目は卒論と卒業設計に充てることができました。卒業実験のメンバーは七人おりましたが、まとめの作業は私一人でやる事になり後の六人は当時はやっていたマンボに明け暮れていたのが単位取得は必死でした。教授はそれを見ていて私の論文に対しては最高点をくださいました。

昭和三十年から三十一年は不景気で就職口は全くありませんでした、決まったのはコネのある学生と稼業を継ぐ人間だけでした。然し三月の初めに研究室から、この会社（鉄骨建築の大きなものの施工）に行けと言われて、ようやく勤めることができました。その頃三菱は、丸ビル廻りのレンガ造りの建て替えに着工しておりましてその仕事を請け負っておりましたので私も自分の設計した鉄骨建築の現場管理を任されて現場事務所に詰めておりましたがある日トラックの運転手が青い顔をして飛び込んできました、何かと聞くと鉄骨を積んだトラックがガード下で進退窮まってしまって動かないとのことで、それは大手町のガード下（東京駅の北側）で中央線、山手線、京浜東北線等々の通るガードで、その鉄骨の一部のはねの部分が詰まって進むことも後退することもできずなんと仕様がなくなったとのこと、後続の車はつながり、警察は来るはでどうしようもなくなったのです、私は兎に角現場に行ってみたところ既に幾社のマスコミが来ており大騒ぎでした。私は暫く考えていましたが打開策は見つかりません然し車に多少は傷はつくがと行ってタイヤの空気を抜いてみると、僅か1,2センチのことなので何とかなるだろうと思って運転手にやらせてみました。その結果車は前進することが出来ようやくほっとしました。それはガードの高さを確認しなかったのが原因でした。

次には同じ現場で困った事が生じました。それは丸の内界隈の道路は古くて地下の水道管が破れて水が漏れて上面の舗装のみにて支持されておりそこへ10t以上もある鉄骨の柱を積んだ車が通ったために

道路が陥没し車が傾き鉄骨は落下し、横に駐車されていた高級車3台が潰されてしまいました、まるで007みたいなものでした。矢張りテレビに映し出され、廻りをうろろしている私が映し出されてしまいました。そんなことを経験しながらも夜は接待のため新橋の飲み屋街をうろついておりましたが、その中で良く利用した店がありよく通いました、その辺りをギターを持って流しをしていた坊主頭の青年がおりまして百円出すと、どんな歌を指定しても歌ってくれました、それがなかなかうまいのですその青年は今の北島三郎でした、又その近くに小料理屋がありましてそこにも度々行ったのですが、おかみとまだ二十歳に満たない位の可愛い娘さんと二人が挨拶にくるのですがその娘さんは後の有名な女優（名前は今一寸思い出せませんが）でした。

そんな生活も嫌になってその会社を退職しました。東京都に入り、最初は警視庁でしたがこれが後に警察と消防が別れる事になり私は東京消防庁予防部査察課に行くことになりました、元の陸軍省と今の自民党本部との中間位の位置に庁舎が出来上がりその勤務となりました。消防の中には建築行政もありますので、その対応のためでしたが私の他に一級建築士は係長と部長の二人だけでした。いずれも東大、東工大出で年令で資格をもらった人でしたので、具体的な事は消防の事以外はわかっておりませんでしたので、全て私が代行する事になってしまいました、以後建築がらみの事柄は全て私のところに質問等が集中してきました、しかしながら給料は安いので内職に精を出しており施設課の若い職員に手伝わせて設計事務所の仕事を夜行っておりましたが、それが高じて病気になってしまい役所の検査で一年間入院しろと言われ警察病院へ入院手続きを取られてしまいました。役所へ戻ると、あと四か月休めと言われました。それ故私は役所へ退職届けを出して辞める事にしました。その時に課長に言われたことは、1・役所に病気を直しに来たのか・・・ 2・これからは頭を一回下げると千円儲かると思えと言われ役所を辞め独立しました。

その後すぐ、秋葉原のガード下の小さな事務所を借りて設計事務所を開設したわけですが周りは電気屋ばかりでした。

その間現在まで我が人生に於いて忘れられない事が多々ありました。そのことは又いつの日か紙面をいただいてこの続きを書きたいと思います。

最後にロータリーに関して二言三言申し上げたいと思います。

1. 例会はロータリーに心ある人たちの集まりであり、上下の区別なく対等な仲間として話し合いを持つ場でありますから、その中にはロータリーに関する事を一言でもよろしいから入れて欲しいと思います。これが純粋い親睦であり一般の親睦と異なる所であります。

2. バッジをつけるのは常にバッジに恥じない行動をとりなさいと言う意味であります。
3. ロータリアンは時間を守らなければならない。この事はロータリー以外の会合に於いても同じであります。
4. ロータリーソングでうたわれておる四つの心得は頭の中に入れておくべきでしょう、シ、ミ、コ、ミと覚えてください。  
シ・真実かどうか  
ミ・皆に公平か  
コ・好意と友情を深めるか  
ミ・皆のためになるかどうか  
以上です。今日は私のつたない話をお聞きくださいましてありがとうございます。

## 卓話 大西 信之君

### 「教育現場から見た人口問題」

本日は入会して初めての卓話の機会をいただき、大変光栄に思います。

これからお話しさせていただく内容ですが、私は私立大学職員のため、仕事柄「人口減少」、特に18歳人口の減少については、随分前から大学業界が抱える課題として危機意識を持っていました。すでに地方を中心に経営が困難となる大学も現れ、今後その数が増加することが懸念されています。

大学に限らず人口減少や少子高齢化は、国としても社会保障の維持をはじめ、特に地方を中心に過疎が進み、地域そのものが成り立たなくなるなど、構造的な問題を抱えています。また、企業にとっては国内での消費人口が減るだけでなく、生産年齢人口の減少によって働き手の確保が困難な状況が、今後ますます深刻となる懸念があります。

さらに、企業に限らずロータリークラブを含む全ての組織は人口減少問題に直面しています。このことは伊藤ガバナーおよび山田ガバナー補佐が、卓話の中で会員数減少への危機感について触れている事とも関連します。

本日は、誰もが認識しつつも漠然と不安を抱いている「人口減少・少子高齢化」の問題について、教育現場からの視点を交えつつ、共に考える機会にしたいと思います。

最初は大学にとって最も影響の大きい「18歳(高校3年生)人口の推移と今後の見通し」についてです。年ごとの数字よりも昭和から平成、そして新たな令和の時代に18歳人口がどのような推移を辿るかを大まかに掴んでいただければよいと思います。

戦後の経済成長と共に右肩上がりが増え続けた18歳人口は、平成に入ると1992年(平成4年)の205万人をピークに減少に転じ、そこから急激な減少を経て15年間で40%も減少します。2008年以降は緩やかな減少となりますが、2019年(令和元年)現在118万人まで減少し、大学にとってはこの間で大きく市場が縮小したことになり

ます。そして2030以降は100万人を割ることになりますが、昨年に生まれた子供の数が91万8000人で過去最低を更新していることから、その子供たちが18歳となる2036年の約87万人までは現時点で確定していることとなります。

次は、日本の全人口の推移と将来推計についてです。大正から昭和、平成までの推移と令和以降の予測を見ると、大正から昭和時代は右肩上がり人口が増加していきますが、平成に入り増加は頭打ちとなり、年代別では65歳以上の高齢者の割合が徐々に増えていきます。この傾向は今後更に強まり、2015年の時点で26.6%であった高齢化率は、2040年には35%、2060年には実に40%を超える時代となります。

さらに、日本の長い歴史の中で人口の推移をみると、かなりショッキングな予測が浮かび上がってきます。すなわち、我が国の総人口は、2004年をピークに今後100年間で100年前(明治時代)の水準に戻っていくことが予測されています。この変化は日本の歴史上千年単位でも類を見ない極めて急激な減少となるのです。

2015年時点の年齢別人口分布(人口ピラミッド)を見ると、第1次ベビーブームの昭和22年~24年生まれ「団塊の世代」と、第2次ベビーブームの昭和46年~49年生まれ「団塊ジュニア」で大きな山(人口増加)が出来ていることが分かります。当初国の思惑は「団塊ジュニア」が適齢期を迎える頃に、次の山が出来ると目論んでいたようですが、期待は大きく外れて出生率は低下の一途を辿ることとなります。

では、諸外国での人口問題はどうか?という関心が起きますが、日本に似た人口構成は、ドイツやロシアなどに見られ、将来は日本同様人口減少問題を抱える懸念があります。一方、エチオピアやエジプトなど途上国は、まさに「ピラミッド型」という年齢分布となっています。こうした国々でも生活環境の改善や医療の充実によって平均寿命が上昇し、将来的には少し丸みを帯びたピラミッド型になっていくものと思われます。また、労働力となる「生産年齢人口」に限って諸外国と比較をすると、日本の生産年齢人口が全人口に占める割合は、2011年時点でOECD加盟國中下位の63%ですが、2030年には最下位の57%まで減少する予測です。参考までに、国民の平均年齢を国別に並べると、日本は2020年には先進国で最も高い48.6歳になると予測されています。

以上のデータから、諸外国との比較においても日本の少子高齢化が著しく進行していることが伺えます。

次は話題を日本に戻して、人口減少を国内の地域別で比較してみます。

2015年を100とした30年後の人口は、全



国平均では16.3%の減少ですが、地域によって大きく事情が異なることは皆さんが想像される通りかと思います。東京都をはじめ都市部を擁する地域では「横ばい」あるいは「微減」となる一方、東北地方では秋田県の41.2%減少を筆頭に全国平均を大幅に超える人口減少が予測されています。

ここで、地元愛知県を含む東海地方に目を向けると、2015年を100とした2030年の指数は、愛知県が全国3位の98.3%（減少率1.7%）となり、人口は減るものの比較的緩やかな減少率で進行していくことが予測されています。その要因は、愛知県がモノづくりを中心とした産業の集積地帯であり、近い将来においてもその勢力圏に大きな変化は生じないと見られているからであることはご承知のとおりです。因みに、第1位は東京、2位は大阪ではなく沖縄がランクインしています。（大阪は10位）

次に、東海地方の市区町村別での人口推計ランキングを見ると、第1位は全国的にも若い世帯の増加が著しい長久手市で、以下名古屋市内およびその近郊を中心とした地域がランキング上位に名を連ねます。実は春日井市はトップ20には登場していません。春日井市人口の将来推計は同じ期間で97.9%なので、決して大幅に減少する予測はありませんが、2020年をピークに緩やかな減少に転じると予測されています。

最後に再び18歳人口について、高校卒業後に県外の大学等へ進学する「流出率」で特徴的な傾向が見られるので紹介します。全国で流出率が最も高いのは和歌山県で、実に9割の若者が地元を離れて県外へ進学しています。以下、鳥取、奈良、佐賀、長野、香川、富山、島根までは、8割以上の若者が流出しているのです。これとは逆に、流出率が低い県を挙げると、実は愛知県は最下位、言い換えるなら47都道府県の中で最も地元に残る率の高い地域ということになります。愛知県は流出率が唯一3割を切っており、つまり進学者の約7割は県内の大学等へ進学するという統計なのです。これは、先ほどもお話しした、愛知県では製造業を中心とした産業の基盤が形成されている為、大学卒業後の就職を考えると地元に残る方が有利である、との考えが働いているものと思われます。

以上、いくつかの視点で、人口減少問題について紹介しましたが、本日のまとめとして、以下の点を共有できたのではないかと思います。

- ① 「人口減少」「少子高齢化」「生産年齢人口減少」は構造的な問題で、将来的には国全体に多大な影響をもたらします。
- ② 1億2000万人を前提に作られたインフラ、行政サービス、医療・福祉は人口減少に伴い適正規模への縮小や集約、または統合が不可欠となります。計画的に実行できない場合は「消滅自治体」

が生じる危険性もあります。

- ③ 大学では20年後に進学者が今よりも約12万人減少します。現在私立大学の約半数が定員割れ状態であるなか、大学が生き残るためのキーワードは大学同士や企業・自治体との「連携」と、社会人を対象とした「リカレント教育」への取組みが重要となります。

- ④ 人口減少には「地域格差」が生じています。愛知県は予想される減少率が緩やかであり、加えて若者の流出も他県に比べて低い地域であることは幸いなことです。

人口減少に手をこまねくのではなく、各々の組織がこの問題と向き合うための「知恵（柔軟性）」と「工夫（独自性）」が求められています。

以上、駆け足となりましたが、教育現場で働く立場からの「人口減少」と「少子高齢化」についてお話しさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。



会長挨拶 北 健司君



入会式



入会挨拶 村瀬 昌史君



米山奨学金授与 ゲン・クイン・フォン様



卓話 場々 大刀雄君



卓話 大西 信之君

